

## 9.1 環境報告書の評価



株式会社 山口銀行  
事業性評価部 部長 住宮 一人

### ■第三者有識者のコメント

山口大学「環境報告書 2023」の期間中においては、新型コロナウイルスからの回復期に伴いエネルギー需要が拡大する一方で、国際情勢によるエネルギー価格高騰等から、経済活動に大きな影響があった時期ではないかと思われま

す。貴学では環境に関する基本理念と方針を掲げられ、環境目標には数値目標だけでなく、実験排水の適正な処理の徹底、教育・研究等による環境マインドの向上、職員への省エネ意識の啓発、緑化の推進及び学内一斉清掃の実施等、環境モラルの醸成についても取組項目とされています。特に学生が主体的に行動することは、2050年のカーボンニュートラルに向けて、社会を担っていく若い世代の意識改革には大変効果があるものと感じております。

事業活動における環境負荷の低減においては、エネルギー消費量の低減により、2013年度比46%のCO<sub>2</sub>削減目標に対して、2022年度は27.5%削減とCO<sub>2</sub>排出量の削減状況は毎年順調に推移しています。CO<sub>2</sub>排出量が堅調に削減されていることから、削減可能な余地は少なくなっていくものと思われま

すが、更なる削減が期待できる分野を見定め、施策を講じたうえで教職員・学生一体となって取り組むことが重要となってきます。環境貢献技術の創出分野では、貴学はイギリスの高等教育専門誌（THE：Times Higher Education）THE 大学インパクトランキング 2023において、総合ランキングで301～400位（国内17位タイ）にランクインし、特に「SDG14：海の豊かさを守ろう」では、世界61位（国内7位）という非常に高い評価を受けられています。これは、貴学の「環境

目標と行動計画」の実践、生活排水と実験排水の管理をはじめとした法令遵守、地元河川の河口域自然再生活動における地域住民との連携のほか、適切な管理や各種の活動が高く評価された裏付けでもあります。

山口県は複数のコンビナートが形成されるなどCO<sub>2</sub>排出量が注目されやすい製造業中心の産業構造で、立地企業のカーボンニュートラルへの取り組みが重要な地域となっています。山口銀行及び山口フィナンシャルグループにおいても地域のカーボンニュートラル実現に向け、地域金融機関が果たすべき役割・期待は大きくなっているという認識の下、環境と社会の両面から企業をサポートさせて頂いております。本報告書の取り組みが地域に浸透し、山口大学や山口銀行、地域ステークホルダーの連携により深まることで、持続可能性の向上に貢献していくことを期待しております。

YMFG統合報告書2023

この世界で。  
この街で。  
このじぶん。

YMfg



株式会社山口フィナンシャルグループ

「YMFG 統合報告書 2023」



# 山口大学の環境目標と実施状況

環境マネジメント対策推進会議において策定された「環境目標」の実施状況を次のとおり報告します。

表 4-1 環境目標と実施状況

基本方針	分類 【SDGs 指標】	担当	中期目標	2022 年度環境目標	実施状況	関連ページ
事業活動における 環境負荷の低減	温室効果ガス排出抑制 【SDG 7.9.11.12.13】	全校	2030 年度の温室効果ガス排出量を 2013 年度比で 46 %削減を目指すこととして、第 4 期中期計画（2022～2027 年度の期間）において 2013 年度比で 38 %削減を目指す	エネルギーの消費量を対前年度比及び 5 年間平均原単位変化 1 %以上の低減に努める 電気需要平準化評価を対前年度比及び 5 年間平均原単位変化 1 %以上の低減に努める 温室効果ガス排出量を対前年度比及び 5 年間平均原単位変化 1 %以上の低減に努める	省エネ改修、節電実行計画の推進、エネルギー使用量管理の徹底などを実施しました。 中期目標 環境目標 エネルギー消費量原単位 5 年間平均で 1.2 %減 対前年度比 2.9 %減 電気需要平準化評価原単位 5 年間平均で 1.3 %減 対前年度比 2.8 %減 温室効果ガス排出量原単位 5 年間平均で 7.0 %減 対前年度比 3.6 %減 温室効果ガス排出量 2013 年度比 27.5 %減	P9
	水資源の有効活用 【SDG 6.12】	全校	水使用量の削減に努める	節水の推進	節水機器更新、水量調整、使用量管理の徹底、雨水再利用、井戸水有効活用を実施しました。 使用量前年度比 7.6 %減	P12
	グリーン契約 【SDG 9.12】	全校 財務部 施設環境部	グリーン契約の推進に努める	グリーン調達比率 100 % 環境配慮契約の普及	グリーン調達比率 100 %を達成しました。 環境配慮契約とエシカル消費を実施しました。	P11. 13 P14. 16
	森林保護 【SDG 12.13.15】	全校	紙使用の減量化に努める	紙使用量の削減とリサイクルの推進	両面印刷や Nアップ印刷、電子情報による管理、用紙・封筒の再利用、PC による電子会議・事務手続きの簡素化・電子化、古紙リサイクルの取り組みを実施しました。 紙類購入量前年度比 25.2 %減 印刷複合機出力紙枚数前年度比 24.2 %減	P13
	廃棄物の抑制 【SDG 3.6.11.12.13.14.15】	全校	廃棄物の減量化に努める	廃棄物の削減とリサイクルの推進	ゴミの分別収集の徹底、数量把握と減量化、食品ロス削減・フードバンク支援、実験計画見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒再利用、落葉等の堆肥リサイクルの取り組みを実施しました。 一般廃棄物量前年度比 3.3 %増 産業廃棄物量前年度比 16.3 %減 廃液処分量前年度比 31.5 %減	P14. 16
環境貢献技術の創出	環境に関する研究 【SDG 1～17】	学部等	地球環境にやさしい研究開発の推進	省資源・省エネルギー、地球環境保全等に繋がる研究開発の推進	地球温暖化に対する緩和策、気候変動への適応性環境保全、生物多様性の保全、生物資源の持続可能な利用などの研究の促進を行いました。	P17～24
環境モラルの醸成	環境教育（環境基礎・環境教育カリキュラムの充実） 【SDG 4.13】	学生支援部 学部等	学生への環境教育の徹底	実験排水の適正な処理の徹底教育・研究等による環境マインドの向上	環境対策に関する教育、環境保全及び安全教育、実験排水や廃液処理について、Web 講習会等を活用して、教育の普及推進に取り組みました。	P15 P 25～28
	環境美化 【SDG 6.12.13.14.15】	全校 施設環境部	職員への環境教育の徹底	職員への省エネ意識の啓発	環境対策に関する情報の提供（ホームページ）、省エネ啓発通知（メール）、ポスター掲載、巡視などの取り組みを実施しました。	P13. P27. 28
地域との協調・コミュニケーション	環境美化 【SDG 6.12.13.14.15】	学部等 学生支援部 施設環境部	環境美化運動の促進	緑化の推進及び一斉清掃の実施	キャンパスグリーン作戦（年 2 回）、構内除草作業・植木の剪定・芝管理・放置自転車の整理などの取り組みを実施しました。	P29
	地域との触れ合い 【SDG 4.10.13.17】 職員・学生の自主活動による社会・環境貢献【SDG 13.14.15】	学部等 総務企画部 学生支援部 施設環境部	関係者に対する環境情報の提供 地域貢献活動の推進	各種媒体を通じた環境情報の発信 職員・学生の自主活動による環境貢献	環境情報の発信、社会連携講座・公開講座やセミナーの開催、環境配慮活動の広報活動などの取り組みを実施しました。 地域クリーン作戦（年 2 回）、クールチョイス、CO <sub>2</sub> 削減県民運動の取り組みに参加しました。	P29～32 P27. 29
法規制の遵守	化学物質の管理 水質汚濁防止 【SDG 3.6.12.11.13.14.15】	学部等 安全衛生 対策室 施設環境部	グリーンケミストリーの推進 化学物質の適正管理の徹底	化学薬品等の使用量の削減 化学物質取扱者への教育・訓練の徹底	実験計画の検討及び見直し、化学物質使用量の削減、有機溶媒の再利用などの取り組みを実施しました。 廃液処分量前年度比 31.5 %減 環境保全と安全教育、廃液処理教育などの取り組みを実施しました。	P6. 14 P28 P6. 14 P28
			下水排除基準、排水基準の遵守	化学物質及び排水・廃液の適正管理	実験・研究室の巡視、各種排水、廃液の適正管理の徹底をしました。	P6. 14. 16 P28
	大気汚染防止 【SDG 3.6.12.13.14.15】	学部等	フロン漏洩防止、大気排出基準の遵守	フロン排出抑制法に関する第一種特定製品（業務用空調機器、業務用冷凍冷蔵庫等）の適正管理 自家発電装置等の大気排出基準による適正管理	フロン排出量は、適正な維持管理により、報告対象値未満となりました。 はい煙排出量は、適正な運転及び維持管理を行い、排出基準値以下となりました。	P5
産業廃棄物の処理 【SDG 3.6.11.12.13.14.15】	学部等 財務部 施設環境部	産業廃棄物の適正な管理と処理	産業廃棄物の適正な管理と処理	廃棄物マニフェストの適正な管理と処理を実施しました。	P5. 14. 16	
環境マネジメントシステムの整備・充実	環境配慮の取り組みのための管理体制 【SDG 11.13.17】	全校	管理体制による適正な活動	管理体制による適正な活動	環境マネジメント体制の円滑な運用及び環境目標や行動計画の履行、組織内への数値目標・実績等の周知・確認を実施しました。 環境マネジメント対策推進会議：年 3 回開催 環境マネジメント対策部会：年 3 回開催	P2～4

最新の「山口大学の環境目標」 URL



4



7